

## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3 (入山規制) が継続 >

口永良部島では、火山活動の高まった状態が継続しています。

10 月 7 日および 8 日に現地調査を実施しました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測では、引き続き新岳火口縁の西側および西側の割れ目付近で高温域を確認した他、南西斜面の新たな噴気地帯も高温域となっているのを確認しました。火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 500 トン (前回 9 月 12 日 : 300 トン) と引き続き噴火前よりも多い状態でした。

### 【防災上の警戒事項等】

火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

### 活動概況

#### ・噴煙など表面現象の状況 (図 1 ~ 3、図 5)

8 月 3 日の噴火以降、噴火は発生していません。

10 月 7 日および 8 日に実施した現地調査で、新岳火口および西側割れ目付近で噴煙が上がっているのを確認した他、新たに新岳の南西斜面で噴煙が上がっているのを確認しました。赤外熱映像装置による観測では、引き続き新岳火口縁の西側および西側の割れ目付近で高温域を確認した他、南西斜面の新たな噴気地帯も高温域となっているのを確認しました。

#### ・火山ガスの状況 (図 4)

10 月 7 日および 8 日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は、両日とも 1 日あたり 500 トン (前回 9 月 12 日 : 300 トン) と噴火前 (5 月 21 日 : 60 トン) よりも多い状態でした。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報 (縮尺レベル 25000)』、『基盤地図情報 10mメッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 : 平 23 情使、第 467 号)。



図1 口永良部島 噴煙の状況（本村より2014年10月8日撮影）

新岳火口および西側割れ目付近で噴煙が上がっているのを確認した他、新たに新岳の南西斜面で噴煙が上がっているのを確認しました。



図2 口永良部島 噴煙の状況（島の南西側の海上より撮影）

- ・写真 ①の黄色丸は新岳南西斜面の新たな2カ所の噴気を示しています。
- ・写真 ②は写真 ①の赤枠内を拡大したものです。
- ・写真 ③は8月21日に撮影。新岳南西斜面で噴気は認められません。

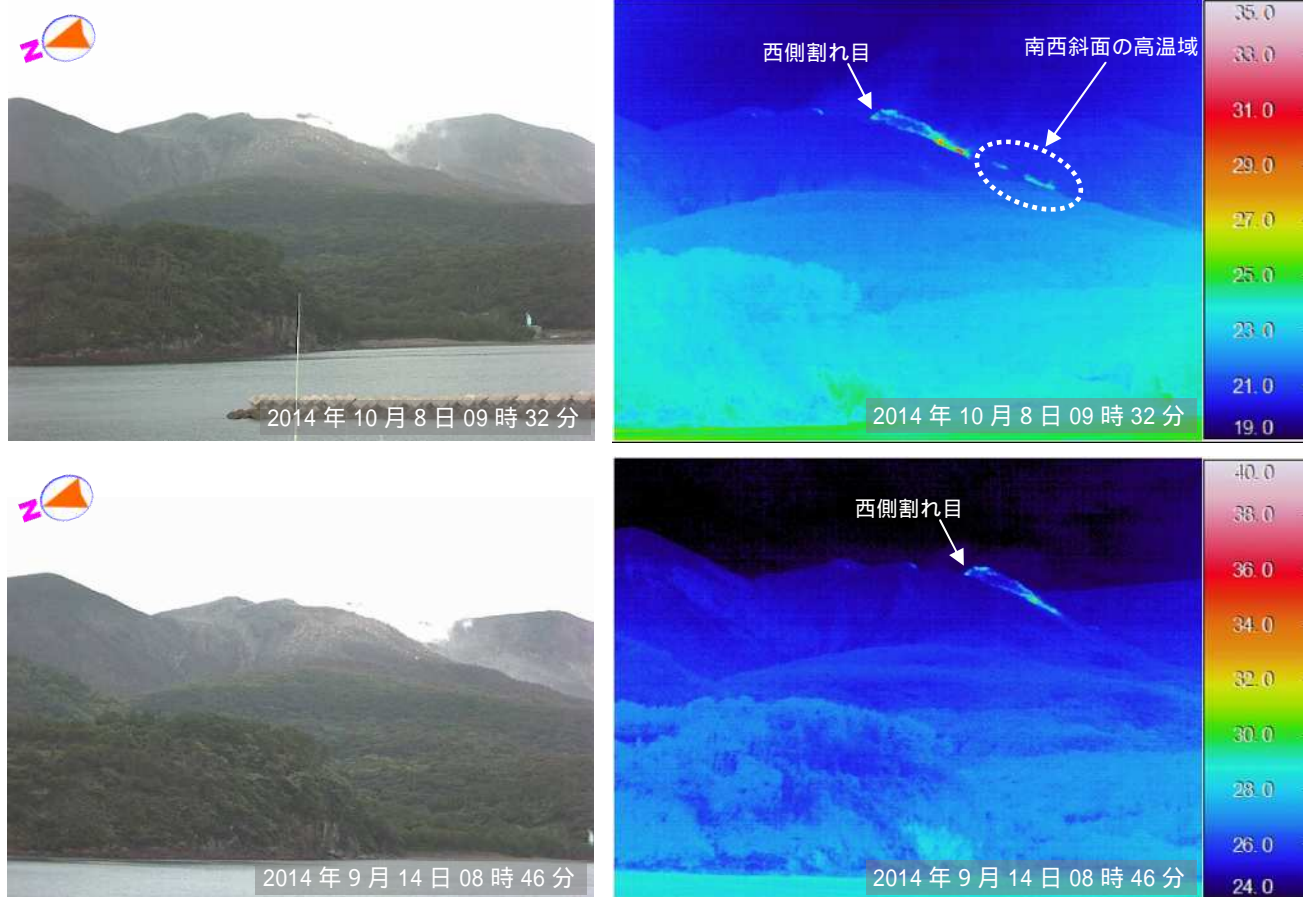


図 3 口永良部島 赤外熱映像装置による新岳火口付近の地表面温度分布

赤外熱映像装置による観測では、引き続き新岳火口縁の西側および西側の割れ目付近で高温域を確認した他、南西斜面の新たな噴気地帯も高温域となっているのを確認しました。

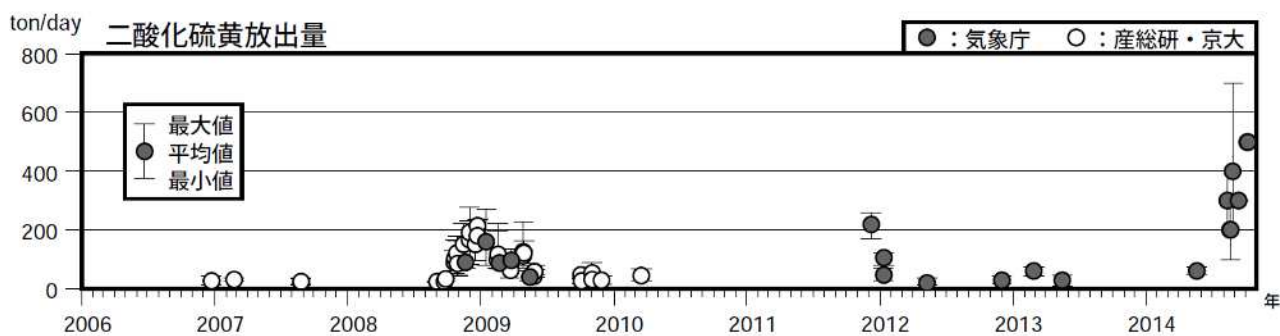


図 4 口永良部島 二酸化硫黄放出量の状況

10月7日および8日に実施した火山ガス観測では、二酸化硫黄放出量は両日とも1日あたり500トンで、噴火前よりも多い状態が続いていました。

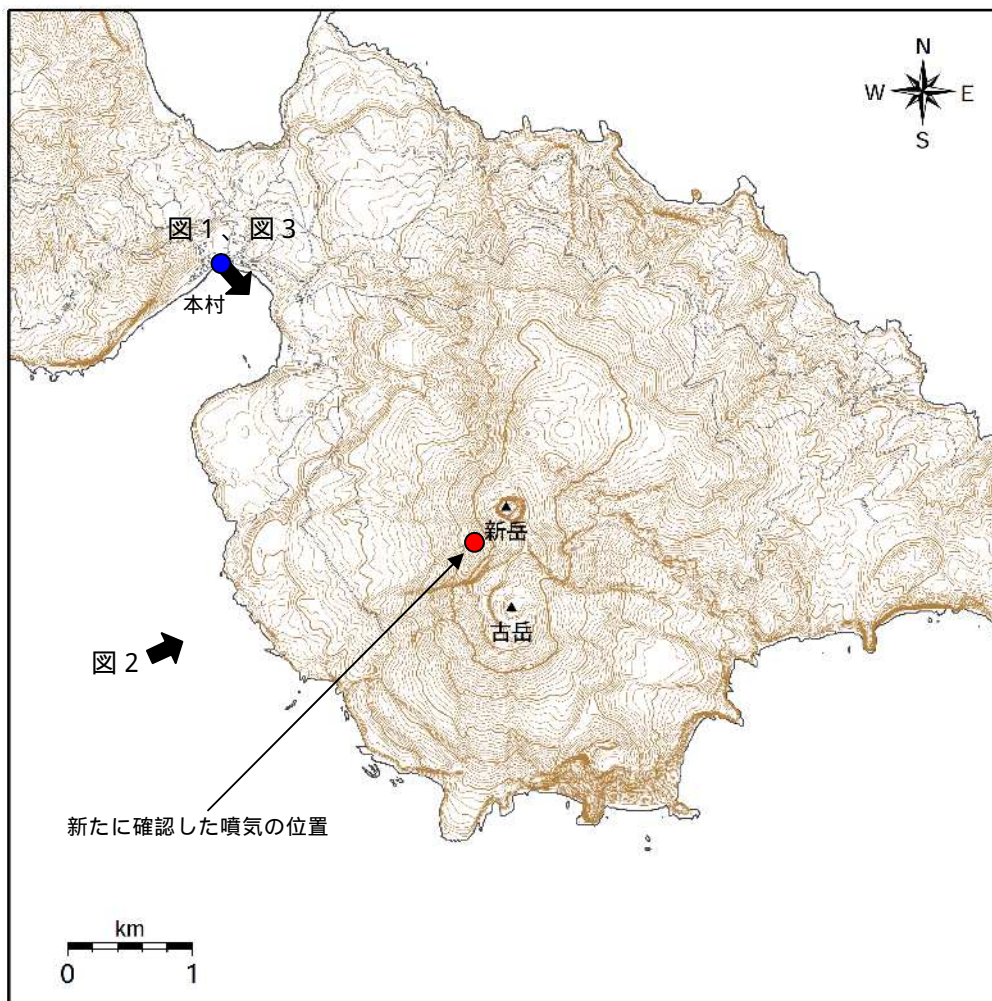


図 5 口永良部島 新たな噴気の位置と写真の撮影位置